

平成29年度 学校自己評価システムシート (県立春日部高等学校 定時制課程)

目指す学校像	基礎学力を身に付け、人権尊重の精神を養い、一人ひとりの生徒が生き生きと共に学び合う学校
--------	---

重点目標	1 安心安全な環境の中で、基本的な生活習慣を身に付けさせ、規範意識と自己管理能力を育成する。 2 「わかる授業」を実践し、進路に応じた学力の向上を図る。 3 キャリア教育を実践し、進路希望を実現する。 4 学校・家庭・地域社会への情報発信を通じて、魅力ある学校づくりを推進する。
------	--

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	7名
	生徒	2名
	事務局(教職員)	10名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価							
年 度 目 標					年 度 評 価 (2 月 8 日 現 在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	中学校時代から不登校など、多様な生徒が在籍している。落ち着いた学習環境の中で、生徒が社会に出て自立できるよう、挨拶を励行し、基本的な生活習慣を身に付けさせるとともに、自分の身は自分で守る安全意識育成も必要である。	・中途退学者数の減少	<ul style="list-style-type: none"> ・教員間の情報共有、家庭との連携 ・スクール・カウンセラー、スクール・ソーシャル・ワーカーとの連携 ・外部諸機関との協力 	<ul style="list-style-type: none"> ・中途退学率は減少したか。(H28 8.6%) 	<ul style="list-style-type: none"> ・中途退学者数21名。中退率は9.6%とほぼ前年度並みであった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人一人の情報を教員間で把握し、スクール・カウンセラーやスクール・ソーシャル・ワーカー等との連携を一層推進し、中途退学の防止に組織的に取り組む。 ・出席率・遅刻率・早退率を教員間で共有し、巡回や声掛けも実施して、生徒の授業参加率を高めるように取り組む。
		・出席率の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・登校時の声かけ指導 ・校内巡回指導 ・外部講師等による講演会の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・出席率は向上したか。(H28 88.7%) 	<ul style="list-style-type: none"> ・4月から1月までの出席率は88.3%と、前年度とだいたい同じであった。 		
2	きちんとした態度で授業を受けている生徒がほとんどであるが、さらに生徒の実態を踏まえた「わかる授業」を実践し、社会人として必要な基礎学力を育成することが必要である。	・授業理解度の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・教員相互の授業見学(年間2回以上) ・少人数・習熟度別・TTの実施 ・多文化共生推進事業の活用 ・学習サポーターによる授業支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒アンケートで、「授業が理解できる」が増加したか。(H28 80%) 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒アンケートで、「授業がよく理解できている」が21%、「授業が理解できている」は62%であり、83%の生徒が授業を理解できていると答えている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の授業理解は向上しているため、その維持に努める必要がある。 ・教員相互の授業見学を活性化させるとともに外部の人材を活用して学校全体の教育力を高めたい。
3	生徒に適切で健全な勤労意識や職業観を養成し、進路実現に向け目的意識を培い、最終的には卒業後の進路決定率を向上させることが必要である。	・進路決定率の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・進路講演会等の実施 ・ソーシャルスキル講演会や生き方在り方教育などの実施 ・面接指導の充実 ・総合的な学習の時間の活用 ・進学補習の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路未決定者の割合は減少したか。(H28 17%) 	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業決定率84.3%(進路決定者数43名、卒業予定者数51名)。引き続き、未決定者へは進路決定に向けての援助を行う。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度以上の成果を上げることを目標にし、進路行事・ソーシャルスキル講演会・総学の時間等を工夫するとともに補習の充実も必要である。
4	「学び直し」「やり直し」の場としての本校の存在意義を説明し、よさをPRするとともに、HPをとおして最新の学校情報を提供することも必要である。	・中学校及び適応指導教室訪問の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・組織的な生徒募集及び本校PR ・行事実施後などのHP更新 ・学校説明会の工夫 ・学校見学者への丁寧な対応 	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校及び適応指導教室訪問は充実させることができ、訪問した中学校と適応指導教室数は増加したか。(H28 91校) 	<ul style="list-style-type: none"> ・11月下旬から12月初旬にかけて、訪問した中学校と適応指導教室の数は、87箇所とほぼ前年並みであった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度も工夫しながら組織的な生徒募集とPR活動を展開し、今年度並みの中学校訪問や学校説明会を実施する。 ・HPによる発信を活性化させる。

学 校 関 係 者 評 価	
実施日	平成30年 2月17日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人一人の情報を共有し、中途退学者を減少させるためにこれまでと同様に組織的な取組をお願いしたい。スクール・カウンセラーやスクール・ソーシャル・ワーカー等との連携も重要と考える。 ・出席率も一つの重要な指標である。難しい面もあるが、長期欠席者を減らすよう引き続き取り組んでいただきたい。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・授業が分かるか分からないかは中途退学の防止のための要因の一つであると思う。生徒の目線に立った分かる授業をお願いしたい。 ・教員相互の授業見学や外部人材の活用も学校活性化のためには大切な手段だと思う。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・多様な活動をとおして、生徒たちにはコミュニケーション能力など社会で必要とされる能力を着実に身に付けてほしい。その上で、自分の個性を生かした進路を選べるよう支援をお願いしたい。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・日々の教育活動を分かりやすくPRすることが大切だと思う。できる範囲で、学校だよりを発行したり、学校説明会を実施してほしい。 	